

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0871400149		
法人名	株式会社 向日葵		
事業所名	グループホーム「つどい」1号館		
所在地	高萩市高萩291番地2		
自己評価作成日	平成21年10月5日	評価結果市町村受理日	平成22年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成21年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・月1回、協力機関の訪問診療を受け、利用者の方々が安心して健康に暮らせるようにしている。 ・担当者が毎日、レクリエーション(リハビリ体操・歌・簡単なゲーム)等を行い、筋力の維持や脳の活性化に努めている。 ・月1回の職員研修会を実施しており、職員の質の向上に力を入れている。 ・小規模多機能ホームが、敷地内にあり、利用者同士・地域・ボランティアの方々との交流を図っている。 ・年1回、家族と共に楽しく過ごして頂くために、会場を借り食事をやっている。(ウェディングパレス美鳳・鶴の岬)
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>小高い場所にあり、景色や日当たりも良くゆったりとした過ごしやすいホームである。玄関までの上り坂には手すりを設置し、利用者が外出のときの安全面への配慮がある。ホームは2階建ての2ユニットと、平屋の1ユニットの3ユニットに別れている。利用者・職員共に、日ごろから行き来し、ご近所のように付き合いがある。2階建てのホームの裏には、畑があり季節の野菜を皆さんで作られている。献立には畑で取れた新鮮な野菜を利用者に提供している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に大きく理念を掲示して全職員が理解浸透出来るようにしている。又、利用者や家族の主体的な意思決定を重視すると共に人格を尊重して利用者に対等な立場で福祉サービスを提供する事を明示し実践している。	ホームの設立当初に職員と共に「家庭的なサービスを」と話し合いで作上げた理念である。各ユニットに独自の年間・月間の目標があり「理念に近づけようと職員全体で取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、地域の一員として町内会の行事・市の行事・保育園・幼稚園行事・地域のイベントには積極的に参加して地域の人達との交流を図っている。	近隣にある保育園・幼稚園の夏祭りや運動会などのイベントに積極的に参加している。ホームの芋煮会や各種イベントには、日ごろから交流を重ねている、近隣の住民の方や高齢者クラブの方の参加も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の行事には地域の方々を招き、利用者との交流の場を設け、気軽にホームに足を運んでもらえるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た意見を管理者会議・フロア一会議等で話し合い、より良いサービスの提供が行えるようにしている。	2ヶ月に1回開催し、外部評価の結果、行事のお知らせ、参加者からの質問に応じその意見等を得て、日ごろのサービスの向上に反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡会を創設して、市の指導を仰ぎ職員の知識・技術の向上に努めサービス向上に向けての取り組みをしている。	高齢福祉課からの情報収集や、市内の中学校の体験学習の受け入れおよび、職員研修の受け入れも行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関・非常口の鍵は常に開けてあり、職場内・外の研修を通じ身体拘束に対する職員の理解は出来ている。又、組織として身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は研修・勉強会に参加、研修報告を通じて全職員で周知徹底を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に向けた職場内・外研修、フロア一会議・職員会議を利用して事業所内での虐待が見過ごされる事のないように注意を払い防止に努めている。		

茨城県 グループホーム「つどい」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県や市及び関係機関等の研修会や講習会に積極的に参加して、知識の習得に努め、必要な方に速やかに支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者本人の意思を大切にして、利用者本人と面接を行い、同意を得た上で入居契約時に重要事項の説明を行い、パンフレット等を利用し分かりやすく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に謙虚な姿勢で話を聞き、管理者会議・フロア一会議・職員会議等で十分に話し合い適切に対応出来るようにしている。	家族会を設け、家族同士や職員間の意見交換の場を作っている。要望・苦情に対しては迅速に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1・2回程度、職員1人1人と面接の機会を設けており、それを運営に反映させられるようにしている。	職員の面接を年1～2回行い、職員相互に接遇面での確認をし、また、市内特別養護老人ホームへの職員研修の実施もされスキルアップも図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を行い、自己評価したものを管理者・運営者で正當に判断した上で考課の参考にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の職場内研修会を開いており、職員1人1人のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協力機関への職場見学・実習等を受け入れの要請を行い、実施に向けた取り組みを行い、サービスの向上・職員の質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査や入所時の面談等で本人及び家族から情報を収集し、センター方式に書き込み、今望んでいる事、今してほしい事を見つけ出しアセスメントを行い、課題・ニーズを明確にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査や入居時の面談等で家族が何に困っているのか、何を望んでいるのかをよく聞いて、家族と本人が納得のいくよう介護者が負担にならないように、本人が寂しい思いをしないですむよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の健康状態、生活状況を踏まえ、今どのような社会資源を必要としているのか等を良くアセスメントして支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が経験した事、出来る事を話してもらったり、季節の料理方法を教えていただいたり、相談相手になってもらったりして信頼関係を密にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、敬老会時、家族会等に入居者の様子、家族の近状を報告し話合っている。必要時、日誌の閲覧、電話での説明を行い援助している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつ面会に来ても良いように、居室でゆっくりくつろげる空間と時間を提供している。地域交流を密にして親しい人や場所にいつでも行けるようにしている。	地域の人たちとの交流の場として、施設の行事を企画している。高齢者クラブや公民館の行事への参加を積極的に行っている。面会時間の制限はなく、友人・知人への継続的な支援もおこなわれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がお互いに助け合い協力して日常生活が出来るよう、居室の位置・ホールのテーブルの位置等を工夫して、自然に生活出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅介護の為、契約を終了した方は現在のところおりません。病気・治療の為、終了した方は時々面会に行っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室には、使い慣れた家具、馴染み深い物、写真などを飾り、自分の生活空間になるように支援している。	日々のかかわりの中で声を掛け、言葉や表情などから真意を測っている。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から、今までどのような生活、人生を歩んできたか情報を収集して、その人を尊重してその人らしい生活が出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホームのリズムではなく、その日の体調や気分に合わせて、自分のペースで1人1人の生活スタイルで過ごせるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者が馴染みのある暮らしを継続できるよう、センター方式を使用し、カンファレンスを行い、本人、家族と話し合って支援している。	本人・ご家族からの、思いや意見を聞き情報を得て介護計画を立案している。日々の記録と支援経過が、別々に記録されているので、わかりやすくなっている。短期目標の、期間ごとにモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の経過記録に身体状況や生活状況、ADLすべてを記録している。申し送り事項等は、特記事項欄に記入して一目で分かるようにして、情報を共有出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人の生活リズムを尊重して、自由に自分のペースで生活が送れるよう配慮している。又、外出・外泊はいつでも自由で、家族・本人の希望を取り入れている。		

茨城県 グループホーム「つどい」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察の巡回・消防訓練等を行い、安全に暮らせる体制を整えている。運営推進会議には、2名の民生委員の参加を頂き、地域支援機能を充実させている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回、協力病院の訪問診療を受けている。24時間・365日Dr・ナースコールが出来る体制が整っている。	提携医からの往診や訪問看護の協力が得られている。利用者のかかりつけ医への受診は職員が対応し、受診結果に関する情報の共有が図られている。看護師が2名常駐し、利用者の状態を確認し医師との連携をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調や様子等、異変が見られた場合、ホームの看護師に迅速に報告し、病院との連絡を取り対応にあたっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時には、時々面会に行き病院関係者と情報交換をし、早期退院・療養に専念出来るように、本人や家族を支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後の対応について、家族との話し合いの際、十分な説明を行い、看・介護を受ける事に同意のサインを得る。カンファレンスを密に行い、利用者及び家族の意向を尊重した支援をする。	ホームでの看取り経験があり、職員全体でのターミナルの勉強会を実施している。終末期に向けた意思確認は、本人の状態や家族の気持ちの変化に合わせて、話し合いを重ね記録として保存している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の訓練を充実させ、緊急時、応急処置マニュアルを作成し、全職員が随時対応出来るよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、緊急時のマニュアルを作成し、定期的に消防訓練を実施している。	定期的に消防署と連携して、昼夜を問わず避難訓練を実施している。近隣には独居高齢者が多く、ホームを避難場所として呼びかけている。備蓄品は半年分の食糧がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いなど利用者の人権を尊重した対応をしている。感情コントロールが困難な利用者には、十分な話し合いを行い、個人情報管理を徹底している。	本人の気持ちを大切に考え、自己決定しやすい丁寧な言葉掛けをするように努めている。守秘義務について十分理解し、取り扱いと管理に徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事・レクリエーション・容姿等でいくつかの選択肢を与え、本人の希望に沿った支援が出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	心身共に落ちついて穏やかに生活できるよう支援している。レクリエーション内容を利用者が選べるように声掛けをしながら行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の服装・就寝時の服装・行事・外出等の時の服装を利用者に尋ねて、身だしなみを整える。季節ごとに利用者と職員で話し合いながら服の出し入れをする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が同じテーブルで食事を共にし、家庭的な雰囲気大切にしている。広告などを見て、利用者と一緒に近所のスーパーへ買い物に行ったりする。	利用者の意見・希望に基づいた献立になっていて、ユニットごとにメニューがちがう。食事の準備や片付け当は利用者と共に行っている。ホームの畑でとれた季節の野菜を食することができる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事、食事摂取・水分摂取量をチェックし、記入する。水分摂取量が少ない利用者には声掛けをして脱水が起きないように注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝は歯磨きを励行。夕食後・就寝前は、入れ歯のケアとうがいの介助を行い、常に口腔ケアの清潔に努めている。		

茨城県 グループホーム「つどい」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、尿失禁を無くしトイレで気持ちよく排泄出来る援助をしている。利用者の排泄状態・時間によりリハビリパンツ・失禁パンツ・オムツなどに使い分けをして、不快のないように支援している。	自尊心に配慮し、トイレでの排泄を大事にしながら、オムツ・紙パンツ・パット類も本人に合わせて検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後、排泄の声掛けをして、排便を促したり、ラジオ体操・レクリエーション等で体を動かす事を日課にして取り入れ食事・おやつ等も植物繊維の食材を多く取り入れている。(例:煮魚と共にごぼうを煮る。野菜、きのこにあんかけをかける等工夫)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人1人の希望に合わせて、湯加減・入浴時間・時間帯の工夫をしている。季節を感じてもらえるように、しょうがやゆず湯なども行っている。又、立位を取れない利用者には複数の職員対応で入浴を行っている。	入浴したい日、時間に合わせて入浴していただいている。入浴を拒む人に対して、工夫して声かけを行っている。利用者の方に楽しんでもらうのに、ゆず湯・りんご湯等のイベント風呂も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中は、ラジオ体操・散歩・日光浴・外気浴をしたりしている。午後は軽いリハビリ・レクリエーション・歌を唄ったりして適度の運動を取り入れて、安眠できるように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類と説明の用紙は個人ファイルに綴り、常に職員が確認出来るようになっている。服薬後は、個人ファイルにチェックしてサインをするようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な限りできる事は自分で行い、お手伝いしてもらえるよう声掛けしています。利用者の身体状況・体調に合わせて、洗濯物たたみ・新聞たたみ・話し相手・見守りと個人の得意な事をして、互い協力し合い、生活を送るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の状態に合わせ、散歩・外気浴・日光浴を好きな時いつでも出かけている。外出なども希望を聞いて、月1回ドライブに出かけられるようにしたり、地域の行事にも参加して楽しんでおります。	一人ひとりの習慣・希望など楽しみごとに合わせて、積極的に外出を行っている。	

茨城県 グループホーム「つどい」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方には、御家族様と相談して、小口の現金に関しては状態により本人が管理している。不可能な場合は、事務で預かって現金出納帳を個別に作成して、御家族への報告をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・おたより・FAXなど外部との連絡は何でも出来ます。ハガキを出したりもらったり、又、年賀ハガキ等も書いて出す方もあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所は対面式キッチンなので、いつでも対話しながら家族的な雰囲気での空間作りに配慮している。ホールには行事等の写真や絵を掲載したり、季節の演出をしている。テーブルの花瓶に庭や野草の花が飾られて季節感を感じられるようにしている。	ホーム独自の日めくりカレンダーがある。フロアの飾り付けは季節感があり、家具の配置を利用者と一緒に考えるなど、家庭的な雰囲気が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士雑談したり、テレビ鑑賞出来るようにテーブルを工夫している。ホールの隅に小テーブルを置いたり・玄関にソファを置いたりして、居室以外に1人になれる場所を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室なのでプライバシーが守られた生活空間を確保する事が出来ている。自分に合った配置や使い慣れた家具や生活用品を自由に持ち込む事が出来、本人にとって安心出来る環境を支援している。	写真や思い出の品々が持ち込まれ、それぞれの利用者の居心地のよさがある。居室にあるポータブルトイレには職員手づくりの掛け物で覆っている配慮がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレなど必要な場所に名札や案内を掲示して混乱を防ぐ工夫をしている。見やすいカレンダーを作ったり目に付きやすいところに時計を設置して時間や月日を自分で分かるように工夫している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	63	家族会を開催して、スタッフと家族との信頼関係を図るようにする。	スタッフ・家族との信頼関係を築く。	行事ごとには、必ず家族へ連絡し参加を促すようにする。(花見・敬老会・芋煮会等) 月1回、家族にはひまわりだよりで、生活の様子を伝え、面会時には直接話しをして状況を伝えている。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。